



日研生E-だより 第9号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2014年12月8日

修了生のみなさん、お元気でしょうか。『日研生E-だより』第9号をお届けします。この9月3日に2013年度の日研生は無事に修了式を終えました。そして10月に新しい日研生14名を迎えました。

《2013年度修了された日本語・日本文化研修留学生》



後列左から:

- ・ルワンディ(スリランカ)
- ・チャン(ベトナム)
- ・チャウ(ベトナム)
- ・フォン(ベトナム)
- ・ミン(ベトナム)
- ・パク(中国)
- ・マツ(ポーランド)
- ・サーシャ(ウクライナ)
- ・ゴロウ(インド)
- ・ソニヤ(フィンランド)
- ・キリル(ロシア)
- ・コン(マレーシア)
- ・ジェギョン(韓国)

左上:

- ✿マクシム(ウクライナ)

2014年度日研生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
イタリア	1名
スロベニア	1名
インド	1名
タイ	1名
ベトナム	3名
モンゴル	2名
オーストラリア	1名
オーストリア	1名
カザフスタン	1名
フランス	1名
リトアニア	1名
計	14名



2014年11月8日～9日 2014年度日研生研修旅行

■ 2013年度担任の宮本エジソン先生と副担任の澤田浩子先生からメッセージをいただきました！

宮本先生



皆さん、お元気ですか？平成 25 年度担任の宮本エジソンです。早いもので、皆さんが帰国してから 2 ヶ月ほどが経ちました。日本に来る前のペースに戻りましたか？

私は初めて海外から母国に戻った時、もっともって色々な言語を学んで、色々な地域を訪れたいと思って、様々な奨学金・海外での進学の仕方について検討しました。そして、最終的に日本に留学することとなりました。皆さんと一緒にバスに乗った時、その頃の自分のことを思い出しました。初めて来日して、到着してからの空港の雰囲気、バスの窓からの景色、近代的な高速道路、狭い細い道、古い木造の家、高層ビル。でも何よりも当時の自分の期待、夢……

実は、私も文科省(当時は文部省)から奨学金を貰って日本に初めて来ました。しかし、皆さんとは異なり学部を卒業してから研究生としてでした。大学院に進学して自然言語処理を研究しようと思っていたのですが、専門の変更等があり、国内の大学(九大、京大、東大、奈良先端大学院大学等)を研究生、ポスドク、助手として回って、10年前に筑波大に転職しました。皆さんを見て、昔の自分の熱心さ・キラキラしていた目を懐かしく思い出していました。皆さんには改めて言う必要はないと思いますが、これからどこへ行こうとも、何をしようとも、30~40 年後になったときに自分が後悔しないように楽しく、積極的に毎日を過ごしてください！

日本(筑波大?)に戻ってきたい方は是非 <http://www.studyjapan.go.jp> をご確認ください。またみなさんにお会いできることを楽しみにしております！！

澤田先生



日研生のみなさん、元気になっていますか？みなさんが帰国したのと入れ替わりに、今年も新しい日研生 14 名を迎え、今は私が担任をしています。研修旅行に行ったり、論文のテーマを決めたりと、ちょうど 1 年前を思い出しますね。みなさんの修了式から、まだ 3 ヶ月しかたっていませんが、ずいぶん昔のことのようです。

いまあらためて『異文化との出会い』を見てみると、みなさんの代の日研生は、研究者肌の方が多かったように思います。正直なことを言うと、研究テーマを見つけてから論文を完成させるまでには(しかも母語ではない言語で!) 1 年という

時間はあまりにも短いです。日本で取り組んだ修了論文が、その後みなさんの大学での卒業論文にどのような形で発展しているのか、とても楽しみです。そして、可能なら、ぜひ筑波大学に戻って、研究を続けてほしいと思います。

また、ときどき日本語・日本文化学類の Facebook <https://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi> も見て、みなさんの“後輩”も応援してあげてください！みなさんの持っている個性や能力が一番生かせる環境と仕事を見つけて、充実した生活が送れるよう祈っています。

■ 2013年度日研生に聞きました！

今年9月に修了した日研生14名に次の質問をしたところ、10名の方からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で一年間日研生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたが帰国後の現在の様子を知らせてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

■ パク ダンダン さん (中国出身、大連大学在籍) PIAO, Dandan

1. 筑波大学での1年間の留学生活は最高でした。1年間という短い時間でしたが、私には一生忘れられない思い出でいっぱいです。初めての日本、一人暮らし、また初めての正式な論文の作成等、様々なことのチャレンジはありましたが、担当先生の宮本先生をはじめ、論文の指導教員、生活チューター、論文チューター、さらに日研生の皆さんのサポートで、すべてを無事に終えたと思っています。それ以外にも、手伝ってくれたたくさんの人々に本当に心から感謝しています。



今は、筑波大学の追越宿舎、留学センター、図書館、アラームのような存在であったカラスなど、すべてがとても懐かしくて思い出したりします。もう一度、筑波大学のキャンパスを回りながら楽しみたいです。

また、日本での人生初めてのアルバイト経験や日研生の仲間たちとのいろいろな思い出も私には貴重な宝物になりました。日研生として筑波大学で留学できて本当によかったと思います。このチャンスを与えてくださったみなさんに感謝の気持ちを表します。いつかまた、チャンスがあればぜひ日本に、筑波大学に戻りたいと思っています。

また日本、またつくば！

2. 今は理想と現実の間で苦しんでいます。通訳者になることを夢としてがんばりましたが、それは思ったより簡単なことではありませんでした。でも私は、日本で優秀な通訳者として頑張りたいと思っています。

■ クラカルニ ガウラウ さん (インド出身、当時ブネ大学在籍) KULKARNI, Gaurav Girish

1. 筑波大学の人文・文化学群 日本語・日本文化学類に属したことを誇りに思っています。この一年間は今までの人生の中では最高な一年間でした。日本人だけではなく、海外の友達がたくさんでき、世界中の文化・習慣・言語などを学ぶことが出来ました。お世話になった先生の皆様、生活・論文チューターの皆様、修了論文の指導教員、また、スタッフの皆様には只々感謝の気持ちでいっぱいです。お陰で日本を精一杯楽しむことができ、たくさんのいい思い出が作れました。誠にありがとうございました。



この一年間で一番心に残ったのは同級生、チューターの皆さん、そして先生方と一緒にいった「日研生研修旅行」です。この旅行の時に普段は授業がバラバラの皆さんが集まって、一緒に非常に楽しい時間を過ごせ、すごく仲良くなれました。後、同級生の7人と一緒に「7人の遊民」というグループを組んで話し合ったり、旅行に行ったりして、たくさん遊びました。皆さん、仲良くしてくれて、ありがとうございました！

纏めて言えば、この一年はまさに一生忘れられないような一期一会の経験でした。ありがとうございました！

2. 帰国後、生活に慣れるまで少し時間がかかりましたが、やっと落ち着いてきました。最近、日本の大手企業に「通訳者・翻訳者」として雇われ、新社会人の生活を早くなれるように頑張っています。

今になって、日本の生活を振り返ってみると、いい思い出しか思い浮かびません。日本の大手企業に入社できたことを機に、また日本に行けたら幸いです。改めてありがとうございました！

■ **ゴ ティ チュ フォン さん (ベトナム出身、ハノイ大学在籍) NGO, Thi Thu Huong**

1. 去年の9月に、はじめて憧れの日本に来ました。初めての日本なのに、疎い感や違和感を全く感じなかったです。筑波大学に着いた初日には、すごい「田舎」なんだなあと思ってしまいました。しかし、日々筑波大学の先生方と友達と一緒に過ごし、自分の変化や成長を感じました。筑波大学での一年間は楽しくない日がほとんどなかったと思います。修了論文を書いたとき、朝2、3時まで大学のサテ室にいて、締め切りに追われて必死で、大変でした。それでも、大切な友達がそばにいてくれたから、どんなにつらくても頑張れたと思います。一年間の留学がこんなに素晴らしいものとなったのは、筑波大学にいる先生方をはじめ、日本人の友達や外国人の仲間たちのおかげだと思います。今でも私の中で感謝の気持ちでいっぱいです。



2. 帰国して初めて自分が日本のことをどんなに好きなのか気づきました。どうしても日本に戻りたいというのが今の気持ちです。今、毎日大学の授業やバイトで目いっぱいですが、いつか日本に戻れるという夢を抱えて頑張っていきたいと思えます。

■ **タン チェン コン さん (マレーシア出身、マラヤ大学在籍) TAN, Cheng Kong**



1. つくばでの一年間をあえて言葉で表現すると、「毎日がローラーコースター」が適切かと思います。弱い自分には刺激が強すぎるし、胃が痛くなるし、神経を削るし、「二度目はどう？」と聞かれたら、ついさっきまでは「これが最後だ！！」と答えてしまうかもしれないくらい厳しかったです。しかし、それと同じくらいに思い返せば、笑みが止まらない、いい経験ができたなあと思います。最も印象的なのは、僕の隣に住んでいた日本人の方が仕事の帰りにもかかわらず、僕が未だ一度もご来光を見たことがないと知り、即座に僕と一緒に筑波山に登りに行った事です。山頂に着いた頃はとつくに朝になって

しまいましたが、その登山の過程は今でも浮かびます。

厳しいだろうと予想していた勉強に関しても、先生と論文チューターが熱心に指導してくれて、無事に自分の調べたいことを調べることができました。まだたくさん行きたい場所がありますが、僕はそれらをこれからの楽しみのために取って置きたいです。ですので、あえてここで宣言します、「つくば、二度目はあるぞ！！！」。

2. 帰国して2ヶ月が過ぎました。自分が本国に着いた頃は、すでに大学の授業が始まっているので、同級生の皆に追いつくのが結構大変でした。そして、正直に言いますと、自分が日本で一年を過ごした余韻がまだ強く残っていますので、いろいろな不慣れを感じました。中には、特に留学する前はまだ同級生だった友達が自分の先輩になったり、自動ドアではないのにコンビニのドアが開けるのを待ってしまったり、誰かに呼ばれたらつい「はい」で答えてしまったりすることが印象的です。今の大学でも筑波大学にいたころと同じように、日々日本語と格闘していますが、その「日本にいた一年」の経験が本当に

助けになっていると感じるときがあります。今後はその経験と、つくばにいたころ、いろいろと助けてくれた皆さまに恥を掻かせないように頑張りたいと思います。自分を含めた日研生たちに手を差し伸べてくださった先生方、チューターの皆様、および管理事務所の皆様、本当にありがとうございました。それでは、またどこかで・・・というより、いつか、またつくばで！！

■ **ファム ティ チャン さん**（ベトナム出身、ハノイ国家大学外国語大学在籍） **PHAM, Thi Trang**

1. 日本への留学は私の夢だ。日本の政府の支援のおかげで、整備された環境の中で勉強し、夢が現実になった。心から感謝を申し上げたいと思う。筑波大学で一年間日研生として勉強して、今でも心に残る思い出は最初の数日間だった。寮、外国人登録証明書、銀行口座、携帯電話などの手続きは本当に難しかったが、チューターをはじめ皆の熱心な手伝

いをいただき、無事に登録を完了した。そして、筑波大学で色々な異文化のふれあいできる環境で成長し、世界の色々な国からの友達ができ、筑波大学に留学することを通じて、「国際」、「グローバル」とは何か少し分かるようになった。多くの外国人の留学生と出会え、仲間になった。



2. 現在、ハノイ国家大学外国語大学で勉強している。最初の数日はまだ慣れていなかったから、日本が恋しかった。今の時期は秋で、日本の秋の風景、紅葉が非常に恋しい。もう一度日本に戻りたくて、これからも勉強をはじめ色々なことに頑張って、前を向いて進んでいきたい！

■ **バビエノ マテウシュ さん**（ポーランド出身、ワルシャワ大学在籍） **BABIENO, Mateusz**

1. 日本に来たばかりの時は夢がかなえて楽しかったが、難しい点がなかったとも言えません。一番楽しかったのは、や



っと母国のポーランドとそれから離れている島国に着いて、文化や習慣などが全く違う日本の方々と交流できるようになったことです。難しい点について少し書きましょう。正直に言えば、日本に行ったばかりのころは、かなりびっくりしました。なぜ驚いたかという、日本人の日本語は私が以前から勉強してきた日本語ではなく、まるで何か別の言葉のような感じがしたからです。日本学科の学生ですから、日本人との会話はとても簡単であるはずだったのに、それは現実よりもむしろ願望に基づいた考え方でした。一般の教科書の日本語は日本人の

使う日本語とちょっとずれているのが分かって、良い勉強になったのです。

皆さんが思っているように、自然の日本語を身に着けるのは、結構難しいことです。それにしても、私が一年間も勉強したり、日本人と会ったり、日本のテレビを見たりしておりました。私は日本語能力がまだ望ましい程度に達したとは言い難いですが、ペラペラになりたい私のような人である場合は、日本で一年間以上過ごすという経験が必要なのは、言うまでもありません。

筑波大学は先生の方々はとても優しく、日本語や修了論文に関する問題があったら、いつも頼りになりました。図書館は大きく、どんな本でも探せて、「Ludwig von Mises」のヒューマン・アクションもありました。修了論文を書く



のはそれほど大変ではありませんでした。つくばという町は、緑に恵まれているし、電車に乗ると東京までは40分間ほどしかかからないから、留学生にとっても良いところだと思います。

2. ポーランドに帰って、2つの学部の卒業生として、ワルシャワ大学で言語学博士の単位を取ろうと思っています。その傍ら、テレビ放送局で勤めております。毎日頑張って日本語を勉強することは、もちろん、決して忘れておりません。将来は日本でテレビ記者として働くのが夢です。

日本に行って、日本人だけでなく、他の国から来た人々と友達になって、どんなことよりも幸せだったと思っています。日研生として、日本で留学することができたことで、日本語がペラペラになりたいという希望は、以前よりも強く感じるようになりました。「毎日頑張らなければなりません！」というのは私のモットーになったのです。

日本政府の文部科学省や筑波大学の先生方の皆様に言いたいです：ありがとうございました！いつか日本に戻ることを楽しみにしております。

■ チャン ティ グェット ミン さん（ベトナム出身、貿易大学在籍） TRAN, Thi Nguyet Minh

1. この一年間は本当に素晴らしかったです。日本語力もアップできたし、日本人の友達、世界中の友達もできて、うれしかったです。来日してから帰国まで、担当の先生方、生活チューター、論文チューターが日常生活や勉強などを親切に支



援してくれて、非常に楽しい一年間を過ごしました。筑波大学での思い出は、一生忘れられません。

今、日本はもう秋になりましたね。日本の秋は本当に素敵です、もう一度筑波大学にある紅葉と銀杏並木を見たいです。つくばは本当に恋しいです。

2. 9月からハノイ貿易大学の四年生になりました。勉強のかたわら、日本語センターの教師をやっています。毎日忙しいですが、元気にやっています。日本に戻るために一生懸命頑張っています。この一年間、ありがとうございました。

■ ジャヤティラカ ルワンディ マヘシカー さん（スリランカ出身、ケラニア大学在籍）

JAYATHILAKA, Ruwandi Maheshika

1. 日研生として日本の筑波大学で勉強した一年間は今までの人生の中で得られた最も素晴らしい経験だと思う。日本語の能力だけではなく、日本の文化の様々なところを実際に経験しながら日本の文化についても、得がたい能力を得ることができた。緑の多い筑波大学は勉強のために本当にいいところであった。自然に溢れた大学構内は今でも思い浮かべる。満開であった桜が見られた大学構内の春の様子は今でも思い浮かべる。一年中暑い南国では体験できない四季の変化による自然の美しさも初めて日本で体験できた。またこの一年間、大学の日本人の学生やほかの留学生たちと交流したりして、異文化を理解することもできた。それは人生の中で得がたいチャンスだと思う。いろいろな国からきた日研生の友達と過ごした一年間は本当に楽しかった。人生の中で初めてたくさんの留学生の友達を作ることができて、とても嬉しかった。今でも皆様と過ごした一年間の思い出は心に残っている。また、筑波大学では親切で素晴らしい先生方と出会えた。その先生方のご指導のおかげで、研究をはじめとした日本語と日本文化の勉強もし終わることができた。はじめの頃から最後まで、励ましてくださって本当にありがとうございました。また筑波大学で出会った日本人の大学生といろいろお世話になったつくば市の日本人の方にもお礼を申し上げます。確かに皆



様と筑波大学で出会って本当によかった。いつかまた日本で皆様と会える日を楽しみにしている。

2. 帰国してから、またスリランカのケラニヤ大学に戻って残りの勉強をし始めた。大学では筑波大学で得た能力と経験なども生かして、日本語の勉強をしている。大学の日本の文化に関する科目などでは、スリランカ人の大学生たちに私が得られた知識を発表する機会が何回も与えられた。来年卒業する予定である。卒業後先生として、日本の留学の体験など生かして、スリランカ人の高校生と大学生に日本語と日本文化についての知識を与えようと思っている。また時間のあるときは翻訳と通訳の活動にも参加していきたいと思っている。今は勉強で忙しくなっているけど私の夢を成し遂げるために毎日頑張っている。

■ **クエン ミン チャウ さん** (ベトナム出身、フェ外国語大学在籍) **NGUYEN, Minh Chau**



1. 日研究生として筑波大学で勉強した一年間はとても楽しくて大事な思い出になりました。フェ大学で日本語を勉強し始めた時、いつか日本に留学できますようにとずっと願いながら頑張ってきました。筑波大学に留学できて、他国の新しい友達もできて、本当に嬉しかったです。先生方のおかげで、もっと広い世界が見られて、自分の知らないことがまだまだたくさんあることに気付いた。それは自分をもっと頑張れる動機になりました。そして、チューター達もすごく親切に色々教えてくださいました。先生方とチューター達に感謝したいと思っています。日本での旅行や体験、また日本で学んだこ

とは一生忘れられないと思います。将来、通訳者になりたい私にとっては、日本で学んだことがとても役に立つと思います。帰国した後もいつも筑波のことについて思い出しています。本当にありがとうございました。

2. 帰国して、フェ大学に復学しました。友達と先生にも日本で勉強したことや体験したこと、または初めて来た時の苦労したことについて話し合いました。筑波大学をもっと多くの人々に知られる為に、後輩たちにも紹介したいと思っています。今後、後輩たちも筑波大学に留学できたらすごく良いと思います。

■ **ワシルツォフ キリル さん** (ロシア出身、モスクワ市立教育大学在籍) **VASILTCOV, Kirill Dmitrievich**

1. 筑波大学に1年も留学できて本当によかったと思います。入居した宿舎は少し不便ではあったが、食堂、図書館など大学の他の施設が近くて全体的に便利なキャンパスでした。この勉強したくなるような環境のおかげで、以前から興味を持っていた日本語学と言語学にさらに熱心になって、図書館で論文を読んだり友達と議論したり勉強がはずいぶん楽しくなりました。そして他の日研究生と一緒に勉強したり、励まし合ったり、暇な時間に遊んだりするのが楽しかった。新歓のとき、キャンパスを歩き回ったりして、様々なサークルの演奏を見るのも非常に楽しかった。留学とは、「真面目」よりも「楽しい」が大事だと思いました。ちなみに、私はピアノ愛好会とDELTAという交流会サークルに入りました。おかげで、日本人の友達をたくさん作ることもできました。

2. 帰国してからしばらく逆カルチャーショックで何もやる気が起きませんでした。今回復して順調に言語学の勉強を続けています。そして2015年の7月に卒業ということで卒業論文も書いています。将来のことをじっくり考えた結果、日本の大学院に進学することにしました。そのために一生懸命頑張って勉強して研究生を応募したいと思います。



■ 思い出のワンショット

2013年11月9日～10日 2013年度日研生研修旅行



2014年9月3日 日本語・日本文化研修留学生修了祝賀パーティー





2014年12月3日

皆さんがお馴染みのG棟の向かい側にそびえている楓(かえで)の木です。
今年も綺麗に色づきましたよ。
いつかまた見に来てくださいね。

「日研生 E-だより」も 9 号になりました。皆さんからの便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



kimura.mayumi.gf@un.tsukuba.ac.jp

soo.woon-kuen.gp@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。